



## 地球の温暖化にメス！

平成17年 2月16日  
**「京都議定書」が発効**  
**浪費社会に終止符を！**

世界各地で異常気象や環境変化が頻発しています。日本でも伝染病・異常気象・農作物の不作・海面の上昇などの温暖化の悪影響が予想されます。企業の活動や私たちの生活から出している二酸化炭素は、地球の温度を上昇させています。この「京都議定書」により、日本は、'08～'12年度の温室効果ガス（二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）、代替フロンなど）の排出量を '90年度比で6%減らす義務があります。



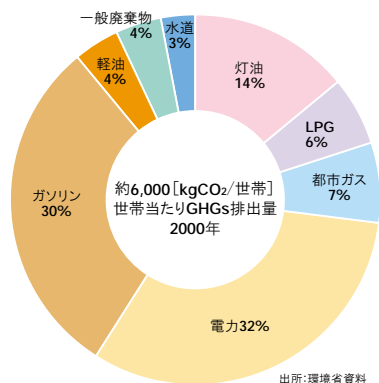
雨宮神社（あまみやじんじゃ）のみどり 財田町

雨宮神社は、農耕、特に雨乞いにゆかりのある神社で、境内には、樹齢千年にも及ぶかと思われる貴重なタブノキの大木をはじめアラカシ、クスノキなどが混生し、地域の身近なみどりとして親しまれています。

このため、県では、「かがわエコオフィス計画」を策定し、自らが率先して環境に配慮した活動を行うことにより、県民・事業者・市町等の環境保全に向けた自主的・積極的な取組を促進しています。

また、住宅用太陽光発電システムへの補助制度を設けるなど、新エネルギーの導入を促進するとともに、児童・生徒等県民に向けて、学校現地での「体験型環境学習」の展開、「かんきょう家計簿」の作成・配付、シンポジウムの開催、電気使用量の削減キャンペーンの実施、テレビ、新聞等の広報媒体を活用した、普及啓発を行っています。

当研究センターでは、「環保研・学習サポートボックス」や「環境キャラバン隊」の環境学習により、児童・生徒等の温暖化防止意識の高揚や情報提供を推進しています。



ところで、家庭から出る温室効果ガスの大部分は、「電気」と「ガソリン」によるものです。どちらも私たちの生活で欠かせないものとなっています。でも、それぞれの家庭で少しずつでも減らすことができれば全体として多くの二酸化炭素を削減していくことができます。また、二酸化炭素を酸素に変える「緑化（みどり）」を推進することが大切です。一方、自然エネルギーを活用した、太陽光発電や風力発電などの導入や、水素を利用する、ほとんど温室効果ガスを発生しない、無公害の「燃料電池」の実用化が進められています。

さて、あなたの家庭で二酸化炭素を出す電気や燃料の消費を、どこから減らしていきますか？

# 研究の「外部評価制度」はじまる

平成16年度試行 平成17年度実施



当研究センターをはじめ、県立の試験研究機関が取り組んでいる試験研究を一層適切に進めるために、外部の専門家等による研究評価が行われることになりました。

**外部評価制度の導入** 研究機関が、限られた予算、人材、設備等の研究資源を有効に活用しながら、県内産業の競争力の強化や県民生活の質の向上につながる実用的な研究を推進していくことや研究機関の活性化を図るために、研究機関が行う試験研究テーマを、外部の専門家等が正当に外部評価するものです。

**外部評価を行う委員会** 研究内容について外部評価を行う機関で、平成16年度に、学識経験者などの方々に構成される委員会が設置されました。外部評価結果の概要や委員の名簿などは、県民にわかりやすく取りまとめられ、県のホームページに掲載されるほか、研究機関などで閲覧ができます。



当研究センターの位置づけ等は、地域保健対策強化のために制定された「地域保健法」に基づき策定された「地域保健対策に関する基本的な指針」や、「香川県環境基本条例」に基づき策定された「香川県環境基本計画」の中で示されており、地方試験研究機関として果たすべき役割は、ますます大きくなってきています。当研究センターの業務等は、これまで、調査・試験検査業務を中心に、その傍ら、行政支援型の調査研究に取り組み成果をあげてきました。近年、地域における技術開発の重要性が指摘されており、地域特性を生かした個性ある研究機関を目指すこととしています。当研究センターの研究の基本方針は、環境や保健衛生の施策が確実かつ効果的に執行されるうえで必要な科学的知見を提供することによって、施策の推進を技術的に支援したり、将来の県民ニーズの動向等をとらえた研究を積極的に推進することです。当研究センターが計画的に取り組んでいる基本研究課題は、快適な環境と生涯を通じた健康の基盤づくりを支援するもので、行政ニーズ及び県民ニーズに対応し、さらには香川らしさも考慮するものです。

## 外部評価委員会の開催

第1日 平成16年11月12日（プレゼンテーション）  
第2日 平成16年11月24日（総合評価）

	研究テーマ等	評価	
事前評価 (新規研究テーマ)	「希少動植物の遺伝的多様性保護に関する研究」 「自然と共生する豊かな環境の創造への技術支援」の研究のうち、生態系の多様性の確保や野生生物種の保存など生物の多様性の確保のための研究です。	A	事前評価 2課題の外部委員会の評価は、A（評価基準：計画のとおり研究を実施するのが適当）で合格でした。  また、事後評価 4課題も、A（評価基準：研究の成果を事業化する（普及に移す））で合格でした。
	「大気中微小粒子（PM2.5）に含まれる多環芳香族炭化水素類濃度に関する研究」 「健全な生活環境の実現、保全、継承への技術支援」の研究のうち、生活環境の保全を図るため、大気の自然的構成要素の保全に関わる環境問題を未然に防止するための研究です。	A	
事後評価 (実施研究テーマ)	「水田からの汚濁負荷の流出特性」	A	
	「観音寺局における浮遊粒子状物質高濃度現象の解析」	A	
	「Adenovirus3による地域特異性流行像に関する疫学的解析」	A	
	「香川県における日常食品中のクロルデン、有機スズ化合物の摂取量について」	A	

研究テーマは、「当研究センターの研究基本計画」に基づいて、

今後も、県民ニーズの高い研究を推進していくこととしています。



# 第三回 かがわ環境研フオーラム

平成17年3月11日

当研究センターの研究員の研究成果を当研究センターの3階研修室で発表しました。県内の試験研究機関・保健所・市町や関係の企業からの方々は成果発表に耳を傾け、活発な質疑が行われました。



## 次の5課題が発表されました

研究テーマ名・発表者・研究の成果等	
「水田からの汚濁負荷の流出特性」	笹田 康子
水田での汚濁負荷流出の特性を、施肥や水管理などの要因から調査し、削減対策の基礎的知見を解明	
「観音寺局における浮遊粒子状物質（10ミクロン以下の浮遊粉塵：SPM）高濃度現象の解析」	日野 康良
観音寺市役所局のSPMが他局よりも環境基準を超過することが特に多い原因が、地形による特有な海陸風の消長によることを解明した。また、この現象が三豊地域の相当広範囲に及ぶことを示唆	
「畜産系コンポスト化処理時の臭気低減化に関する研究」 —残留臭気の高濃度化（二次処理）に関する研究—	串田 光祥
畜糞を堆肥化する装置で、発酵処理する過程で発生する臭気を低減化するための、充填塔式生物脱臭法による装置の技術開発中	
「Adenovirus 3による地域特異性流行像に関する疫学的解析」	三木 一男
このウイルスは、急性気道炎を主流とした大規模な周期流行を引き起こすことを解明した。このことから、「感染症法」に基づく「咽頭結膜熱を指標とする監視体制」では動向の制圧は困難であることを示唆	
「香川県における日常食品中のクロルデン、有機スズ化合物の摂取量について」	西岡 千鶴
マーケットバスケット方式により、日常、県民が摂取している食品中のクロルデン及び有機スズ化合物の摂取量は、逐年減少していることなどの確認	

# 「廃棄物学会研究発表会」盛大に開催

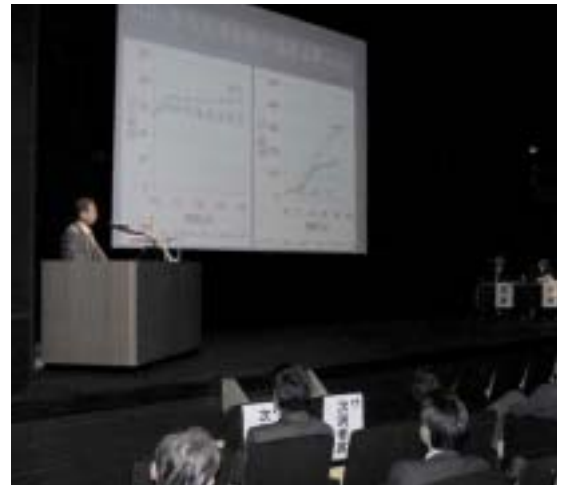
平成16年11月17日～19日 於 高松市 サンポートホール高松

香川県では、不法投棄された豊島の数十万トンに上る産業廃棄物の処理が、今、進められています。

このほど、全国廃棄物学会が開催され、豊島問題に関する様々な企画が行われました。その1つは大好評でした豊島・直島の施設見学会。2つ目は「豊島問題を考えるシンポジウム」で、これまで豊島に関わってこられた住民・行政・専門家などの皆さんが一堂に集い、非常に熱心な議論が行われました。また、豊島問題を集めた口頭発表セッションや、市民展示の中でも住民会議の方々から豊島問題の紹介が次々となされていました。このほか特別シンポジウムとして技術・経済・こころの視点から廃棄物問題が議論されました。ポスター会場や研究発表は過去最高の件数でした。

## 当研究センターからは、次の2課題を発表しました

研究テーマ名・発表者・研究の成果等	
「豊島産業廃棄物の掘削・混合作業中の発火に係る原因究明」	藤田 久雄
シュレッダーダスト主体の廃棄物と生石灰の混合が不均一な状態のまま放置することで数百度の局所発熱が生じることを解明。発火事故は、シュレッダーダスト内の可燃物を発火したものであることを示唆	
「生石灰の添加による豊島産業廃棄物等からの水素発生」	西原 幸一
模擬実験装置により、直島での豊島廃棄物の中間処理施設の小爆発事故の原因究明のため、水素ガスの発生条件等を解析	

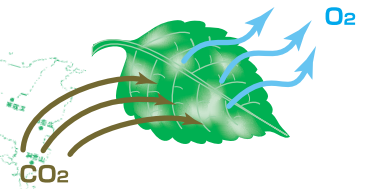


# 「香川のみどり百選」決まる みどりはCO<sub>2</sub>のフィルター

みどり豊かでうおいのある県土づくりに向けて、地域の人々に親しまれている香川らしいみどりや、次世代に引き継いでいきたい森林などが、「香川のみどり百選」として、このほど選定されました。これは、平成16年度に公募や選考作業が進められ、「香川のみどり選定委員会（委員長 増田拓朗 香川大学工学部教授）」の選考を終え、県において選定されたものです。各市町への推薦の依頼や、一般公募が行なわれ、30市町114箇所の市町からの推薦箇所をあわせて、1,942票198箇所の応募がありました。市町の推薦と一般公募で同じ箇所もあり、対象となった箇所数は220箇所でした。

この「香川のみどり百選」によって、県民のひとたちに、身近なみどりに関心を深めてもらい、みどりの保全意識の高揚や、森林ボランティア活動などの保全活動が活発になることが望まれています。なお、「香川のみどり百選」については、ホームページでの紹介や、今後、ガイドブックの作成が予定されています。

ホームページ「香川の環境」 (<http://www.pref.kagawa.jp/kankyo/select/midori.html>)



## 環境ISO 更新審査に合格！



昨年、県本庁舎に当研究センターを含める「認証サイトの拡大」の審査を受けたところですが、県本庁舎認証後、3年目にあたる今年の2月には、「更新審査」が待っていました。当研究センターでは、「環境マネジメント推進委員会」を中心に、システムの理解を深め、適切な運営や必要な訓練を行い、昨年、削減目標値を大幅に上回った「水」、次いで「紙」、そして「電気」の使用量削減に努めました。このように、全職員の環境ISOに向けての熱心な取り組み姿勢などの実情が、今年2月の「ISO更新審査」の「合格」に結びついたのかなどと、喜びを交えて多くの職員が語り合っています。

## 環境学習は 今



### 環境研・学習サポートボックス事業

今年度は、水生生物調査が大変人気！ついで、CODパケットの水質検査、大気中の二酸化炭素の測定の順となっています。

学校等では、「総合の学習の時間」に環境学習を実施するうえで、はじめは、自然に親しむという切り口から入っているようです。次第に、環境への理解が深まり、「環境保全を考える」レベルをめざしてほしいと考えています。「総合の学習の時間」の運用などについて、見直しが行われる近況ですが、次世代に向けての環境学習は、今後も充実が望まれるところです。

## 今回も盛大に開催

### 「エコライフかがわ環境フェスタ2004」

「かがわ国際フェスタ2004」「NPO・ボランティア広場inかがわ」「ごみゼロ推進四国大会」と共催

当研究センターは県環境管理課と共同【環境学習体験コーナー】で出展しました。

出展内容：パネル・模型展示等・実験コーナー・環境クイズ  
環境キャラバン車の展示



平成16年11月7日(日)



〔於〕サンポート高松

かがわ環境研だより Vol.5 平成17年3月

編集・発行 香川県環境保健研究センター  
〒760-0065 香川県高松市朝日町5丁目3-105  
TEL：087-825-0400 FAX：087-825-0408

総務企画課	総務担当 企画情報担当	087-825-0400 825-0415
環境科学部門	水質担当	825-0401
	大気担当	825-0402
	常時監視担当 自然環境担当	825-0403 825-0401
廃棄物・リサイクル部門	廃棄物担当	825-0405
	資源化・リサイクル担当	825-0405
保健科学部門	微生物担当	825-0412
	生活科学担当	825-0413
	臨床科学担当	825-0414

Eメール：kanpoken@pref.kagawa.lg.jp

Eメール：kagawa-kanpoken@nifty.ne.jp (環境研・学習サポートボックス)

ホームページ：http://www.pref.kagawa.jp/kankyo/e\_center/hoken.htm